

International Seminar on Natural Product Medicine 2018

にて口頭発表

最近では、天然化合物は創薬の有望な資源となっている。多くの薬が天然化合物に由来している。私は、今年の10月4日から5日にインドネシアのバンドン市で開催された天然化合物医薬品に関する国際セミナー（ISNPM2018）に参加した。

今回のセミナーでは、私はテオブロマ・カカオLのポリフェノールが、ERKのリン酸化をダウンレギュレーションすることによって心不全を引き起こしたTACモデルの圧力過負荷を抑制するという研究テーマの研究結果を発表した。

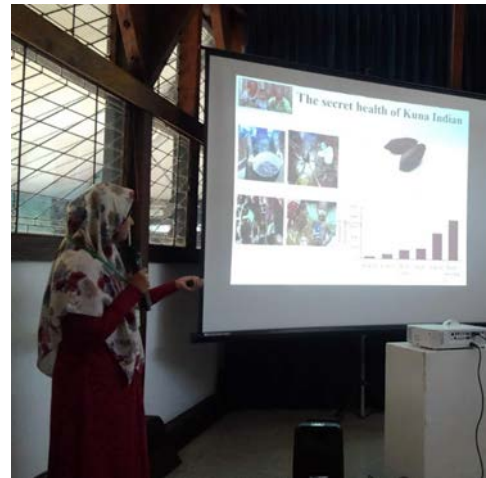
ポリフェノールは、心疾患に有益な効果をもたらす最も重要な天然化合物の1つである。

カカオ製品は、私たちの食料の中で最も豊富なポリフェノール源である。そのため、カカオ豆ポリフェノール（CBP）の有益な特性への関心は着実に増加している。しかし、CBPが心疾患リスクの軽減に寄与できるかどうかは依然としてまだ不明である。

多数の研究により、薬理的戦略による心肥大の予防がHF発生のリスクを低下させる可能性があることが実証されている。したがって、本研究の目的は、心肥大及び心不全の発症に対するCBPの効果を調べることである。

本セミナーでは8分間の結果発表と2分間のディスカッションを与えられた。特にCBPの投与量に関する興味深い質問が来場者から多く寄せられた。

私は現在の研究で天然化合物医薬品の発見及び応用に関する多くの知識を得た。天然化合物医薬品は、科学技術の向上に伴い急速に発展してきた。私は今回のセミナーに参加することで、故郷に戻り、友人たちに会うことができ、嬉しかった。これは学問的にも文化的にも貴重な経験であった。



薬食生命科学総合学府 薬科学専攻 分子病態学
博士後期課程 3年 Nurmila Sari